

大いなる飛躍へ

 JA上川中央



初春

2013

NO.58

発行・上川中央農業協同組合

愛別町本町125

Tel(01658)6-5311

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

編集・営農販売課

1



新年にあたり

上川中央農業協同組合
代表理事組合長
新井 光雄

新年あけましておめでとござい
ます。

組合員の皆様におかれましては、
輝かしい新年をご家族とともに迎え
ること、心よりお慶びを申し上げ
ます。

昨年は、融雪の遅れと春先の天候
不順により心配された作物も、夏以
降の好天に恵まれ回復傾向となり、
総じて農産物は豊穡の出来秋となり
ました。

しかしながら、平成二十三年の東
日本大震災から二年を経とうとして
おりますが、復興の兆しは未だ見え
ず、福島原発事故の収束にも目途が
経っていない状況です。

更に全国的な電力供給不足の恐れ
から、夏以降七パーセントの節電目
標が設定されるなど農畜産物の需
給・価格動向にも大きな影響を受け、
厳しい年となりました。

また、消費税増税法案が昨年成立
し、平成二十六年より段階的な引き
上げが実施されることとなり農家経

済への影響は必須です。

加えて、TPP問題については交
渉参加に向けた政府及び財界の前の
めりの姿勢は変わっていません。そ
のことは、まさに国のあるべき姿を
問う「国のかたち」の行方が憂慮さ
れる事態です。

依然として農業をはじめ幅広い分
野への悪影響が懸念されておりま
すので、JAグループは交渉参加阻止
に向けて運動を強力に展開して参
ります。

本年度の事業推進にあたっては、
平成二十二年度にJA事業の着実な
事業展開を図るために策定した第一
次地域農業振興計画及び中期三ヶ年
経営計画が平成二十四年度で終了致
します。

そのため、JAが地域農業の総合
事業体として組合員と更なる事業展
開を着実に進めるため、五年後のあ
るべき姿を目標とした第二次地域農
業振興計画と目指す方策を更に具体
化した中期三ヶ年計画を策定し、着

実な事業推進を図って参りたいと考
えております。

これまで以上に地域の変化や農畜
産物の需給動向の変化などに対応し
た持続可能な農業の実現に向け、世
界情勢の変化に柔軟且つ俊敏に対応
できる農業生産基盤の構築を進め、
本年度も組合員皆様のご理解のも
と、より一層信頼される「地域に根
ざしたJA・信頼と絆」の実現に向
け役員一丸となって取り組んで参
ります。

最後に組合員並びにご家族様方
のご健勝と本年が豊穡の出来秋を迎え
ることができます様、心からご祈念
申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年

代表理事組合長	新井 光雄
代表理事専務	野口 昇
理事	事久保田 幸夫
理事	事久米 啓一
理事	事辰巳 眞
理事	事大村 正利
理事	事土屋 陽一
理事	事清野 英人
信用担当理事 兼金融共済課長	事山中 護
代表 監事	多羽田 光雄
監事	関 行男
員外 監事	奥山 勲
参事	事水谷 辰彦
内部監査室長	奥 智尚
総務課長	奥山 春彦
営農販売課長	木村 悦明
購買経済課長	鈴木 隆之
兼生活課長	鈴木 誠二
上川支所長	端場 誠二



年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成二十五五年の新春をご家族とともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、一部地域での豪雪の影響などにより農作業の遅れなどがありました。その後比較的天候に恵まれ、降雪被害や台風による被害などによって地域の作目による差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ総体的には豊稔の出来秋となりました。

さて、平成二十三年の東日本大震災から二年が経とうとしておりますが、復興への道筋は決して容易なものとはなっており、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安を抱えています。JAグループは、被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にす

総力を挙げて取り組むことが必要です。

なお、今冬は電力不足の可能性から、北海道では今夏の取り組み同様に七%以上の節電目標が設定されました。もし万が一にも計画外停電となった場合には相当の支障が生じることが危惧されることから、JAグループ北海道として節電に取り組んでいく必要がありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、本年は『協同活動でつくる持続可能な農業と地域社会』を主題に開催した第二十七回JA北海道大会決議事項の実践初年を迎えます。本大会は向こう三か年間のJAグループ北海道のめざすべき方向を決定し、これを内外に表明することもに組合員ならびに役職員の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図つとす

大会決議事項の「持続可能な北海道農業の実現」では、日本の食料基

地北海道として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現へ向け、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも農業生産を担う多様な担い手の確保・育成・農業生産に意欲を持って取り進める農業所

得の拡大、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組むことを決議しました。

一方、「次代を担う協同の実践」では、JAグループ北海道の組織・事業・経営において、JAの経営を担う次世代の担い手の正組合員加入を促進し、次代に向けてともに協同活動に取り組むこと、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体の強みを生かし、組合員・利用者（地域住民）から高い満足度を得られるサービスを提供するため、自らがさらなる経営の健全性向上に取り組むこと、加えて、組織を支える人づくりとJAグループ

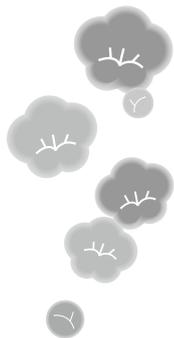
北海道への理解醸成に向け広報活動に積極的に取り組むことを決議しました。

また、TPP交渉参加断固阻止に關しては、多くの関係機関と連携の上、理解促進運動を継続し、組織の総力を結集し不退転の決意で徹底して闘うことを特別決議として再確認しました。

大会決議に基づく基本目標の具体的な成果に向け、JAグループ北海道の総力を挙げて取り組みましょう。

今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によっては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が『一人は万人のために、万人は一人のために』という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの集結を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊稔の秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となります。よっ心から祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。





年頭のご挨拶 JA上川中央 青年部



年頭のご挨拶

愛別支部 部長

中田尚靖

新年明けましておめでとございませう。組合員の皆様と共に、新年を迎えることができたことを、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃より青年部活動に対し、多くのご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、五月に泊原発が停止し北海道においても計画停電が計画され消費者の節電意識が高まりました。また、この冬にも七パーセント程度の節電目標が設定されました。

昨年前に起きた大震災の復興も思うように進まない、田高に伴い大企業が軒並み収益を下方修正するなど消費にまつてマイナス要因が多い年でした。そのせいもあってか、秋口からスーパーの値下げ攻勢が強まり野菜の値段が下落しました。その煽りでこの値段も年末になっても上がってこないという大変厳しい状況が続きました。収入の安定の観点から今までは違った形の販売方法を農協と共に考えていかなければ、愛別のこの産業自体が立ち行かなくなってしまうのではないかと思います。まだまだ、デフレは続くと思います。生産資材の見直し、作業の効率化、販売力の強化など農協と共に考え、この厳しい局面を乗り越えていかなければならないと思います。

昨年末には、総選挙が行われ三年三ヶ月続いた民主党から自民党へと再び政権が交代しました。TPP問題、消費増税、原発問題等争点はたくさんありました。次の政権には、我々の生活をどのように守ってくれるのか、景気をどのように回復して行くのか期待をし、また注視していかなければいけないと思います。

当青年部としては、愛別神社祭における神輿担ぎ、夏祭り、きのこの里フェスティバルなどの町内行事へ参加、道内研修の実施、海外研修への参加を致しました。

海外研修に参加した部員からは、たくさんの方と交流し、今までとは全く違う規模の農業を見ることができ、とても勉強になったと聞いております。

これからも、このような研修や交流会に出来るだけ多くの部員が参加していければと思っています。そこで得た知識をフルに利用して部員一人ひとりが地域農業の担い手としてだけでなく、町全体を元気にする存在になれるようにこれからも活動していきたいと思っております。

最後になりましたが、部員一同並びに組合員関係各位には一層のご指導、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



年頭のご挨拶

上川支部 部長

清野佳朗

新年あけましておめでとございませう。組合員の皆様とともに新しい年を迎えることができましたことを心からうれしく思います。

皆様には、日頃から青年部活動に対し、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は何回「記録的・観測史上初」という言葉を耳にしたかわからないほど、異常気象が続いた一年でした。春作業の遅れが懸念された記録的な大雪に始まり、四月の異常な高温、十月の長雨、そして十二月初めには再び記録的な大雪の影響により、農作業の遅れや収穫物の品質低下など、様々な面で皆さんご苦労された一年であったと思います。

また十二月には総選挙があり、TPPや農政について大きな転換期を迎えていることは間違いありません。

青年部活動を振り返りますと、昨年はいつもにも増していろいろな方々のご協力をいただいた一年でした。昨年は新たに婚活と勉強会に取り組み、婚活では行政や農協観光のご支援のもと成功裏に終わることができましたし、勉強会では様々な分野の方々に講師を快諾していただき、農業についての理解を深めることができました。さらに二回目の参加となった海外視察研修、関係各位の参加をいただいた豊稔祈願祭と収穫感謝祭、札幌方面への視察研修など、とても充実した一年であったように思います。

農業を取り巻く環境は依然として厳しく、先のない農政やTPPの問題、資材や飼料の価格高騰、また震災の影響など問題は枚挙に暇がないほどですが、このような深刻なときだからこそ、女性部、組合員、関係機関各位の皆様と一致団結し、この農業危機を乗り越えて行きたいと思っております。

最後に、部員一同並びに組合員、関係機関各位の一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



年頭のご挨拶 JA上川中央 女性部



年頭のご挨拶

愛別支部 部長

藤原 幸子

新年あけましておめでとございます。女性部の皆様には、ご家族お揃いで健康やかに賑やかに新春をお迎えのごと心よりお喜び申し上げます。

ことわざに「一年の計は元日にあり」とありますが、物事を成すには初めにきちんと計画を立てなければいけないという教えです。その年の計画は一番初めの一月一日に立てるのが良いということから、元々は「一日の計は朝にあり、一年の計は元日にあり」と言ったそうです。

家計簿や経営簿を目的にして、「今年こそは…」と思っている方も多いのではないのでしょうか。

東日本大震災から六六〇日が過ぎましたが何も解決されていない気がします。原子力発電所の事故に端を発したエネルギー問題は、節電からエコ生活へと日常の暮らしを振り返る機会ともなっております。

山梨県の笹子トンネル天井板崩落事故は、建設数十年経過した公共物等の老朽化対策に警鐘を鳴らしたといえます。

そんな暗いニュースの多い中、山中伸弥教授のノーベル賞授賞式の様子にホッと暖かい気分がなされました。山高帽子と燕尾服が似合う彼をチラッと横目で知佳夫人が見つめる。終始に「やかな笑顔で家族と共にストックホルムでの授賞式に臨んだ山中氏は、「八十一歳の母も連れてこれたことが幸せ」と又「これからがスタート、頑張りたい」とのコメントにも好感が持てました。

私の好きな報徳の言葉思い出しました。やさしい報徳の教え（北海道報徳社読本）の中で、『最高の親孝行は、たとえ離れていようとも親を安心させることにある』とあります。

親孝行というものは、親の心を思い、親の心を安心させることにあるのだ。子供が毎日の行いや心がけが確かならば、たとえ遠くの土に就職して帰省する暇がなくても、父母を見舞うことができるとも、あそこで表彰を受けた者があるとの間には、その父母は、あるいはわが子のことだろうと喜ぶし、罪を受けた者があるとの間にも決してわが子ではあるまいと言つて心配しない。そうなら本当の親孝行なのだ。世間の親の心情は、子のために無病長寿、立身出世をいつも願っているものだ。だから子供は、その親の心をもって心として、親を安心させてこそ最高の親孝行といえる。

私にも八十四才の母がいます。夫にも九十三才の母がいます。四人の子供はそれぞれ独立して、孫十人、仲良く暮らせることを望んでおります。

JAも合併して五年が経過します。組合長の『ここが、楽しんで下さい!!』との有難いお言葉で、部員間の交流や親睦などを目的に活動しており、上川と合同で「泊視察研修」も行ってあります。組合員の世代交代が進む中、JA離れをいかに少なくするが等の課題もありますが、押し付けではなく、楽しさや女性部の良さを伝えていきたいと思っております。

本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



新年にあたって

上川支部 部長

辰巳 明美

謹んで初春のお喜びを申し上げます。光陰矢のごとし、あっという間に二〇二二年が終わってしまいました。今年も無事に新年を迎えることができ、心より嬉しく思います。

改めて昨年を振り返りますと、まさに「記録的」な一年だったと思います。春の豪雪にはじまり、爆弾低気圧による豪雨から一転、連日続いた猛暑は千ばつを引き起こし、あまりにも遅い初雪が降ったと思えば、自動車も埋まるほどの豪雪とともに年末を迎えるに至りました。ニュースでは「観測史上初」という言葉が連発され、多くの気象記録が塗り替えられました。異常気象の顕在化を痛感させる、不安な記録となりました。

一方でたいへんおめでたい記録も生まれました。ロンドンオリンピックにおける日本人勢の大躍進です。とくに、なでしこジャパンや競泳メドレーリレーなどの団体戦での活躍は、東日本大震災から「絆」の力で立ち上がるうとする多くの国民に、勇気と感動を与えてくれました。

また、iPS細胞の研究において、京都大学の山中伸弥教授がノーベル賞を受賞したことは、記憶に新しいところでもあります。画期的な研究であることはもちろんですが、世界でもっとも権威のある賞にもかかわらず、つねに謙虚な振る舞いをされる山中教授の人柄の良さには、誰もが感銘を受けたところだと思っております。

こうして振り返りますと、改めて二〇二二年という年は後世の記録に大きく残されることである一年だったと思っております。

そしてその二〇二二年は衆議院解散総選挙によって締めくくられました。原発問題、被災地復興、TPP交渉問題、消費増税、デフレ脱却などを争点に、多党乱立状態で行われた今回の選挙は、日本の未来を問う、非常に重要な選挙であったと思っております。

この原稿を執筆している段階では、またその結果を知るに至っておりませんが、たとえどの政党が政権を取ろうとも、私たち自身が声を上げ続け、行動していかなければ、いまの日本が変わって行くことはあり得ないでしょう。二〇一三年が日本のターニングポイントとなるかどうかは永田町で決めるのではなく、私たちの草の根運動によってこそ決められるものだと確信しております。

いつか本年を振り返ったとき、「二〇一三年は良い意味で『歴史的』な一年だった」と言えるよう、より一層精進して女性部活動に取り組んで参りたいと思っております。

本年も各関係機関の皆様にはより一層のご協力をお願いするともに、末筆ながら新春のご挨拶と代えさせていただきます。あしがとびました。



『協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会』を決議!! 第27回JA北海道大会

11月21日、第27回JA北海道大会が札幌コンベンションセンターで開催され、全道のJA・連合会役員、JA青年部・女性部など約2,000人が参加しました。

3年に1度開催される大会は、大会長でJA北海道中央会の飛田稔章会長が「大会決議にJAグループが総力で取り組み、具体的な成果を挙げることが求められている」と呼びかけて始まりました。

『協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会』をメインテーマに掲げ、「持続可能な北海道農業の実現」・「次代を担う協同の実践」の2つの大会議案を決議し、併せて「TPP交渉参加断固阻止に関する特別決議」を採択しました。

参加者らは2つの決議と特別決議、大会宣言を満場の拍手で承認し、JA道女性協の岩永かずえ会長が「道民のみなさんへのメッセージ」を伝えました。



【大会決議主題】『協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会』

【議案第1号】「持続可能な北海道農業の実現」

JAグループ北海道は、わが国の食料基地として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも、農業生産を担う多様な担い手の確保・育成に取り組むなど、持続可能な北海道農業の確立に向けて、つぎの事項を戦略目標として取り組むものとする。

- ①持続可能な北海道農業の実現に向けた運動を展開する。
- ②農業を担う多様な担い手の確保・育成と営農支援機能を強化する。
- ③農業者が意欲をもって農業生産に取り組めるよう農業所得を拡大する。
- ④消費者との信頼に基づく食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業を実践する。

【議案第2号】「次代を担う協同の実践」

JAグループ北海道は、組合員の世代交代が進む中であって、農業、地域、さらにはJAの経営を担う次世代の担い手や地域住民とのつながりを強化し、次代に向けてともに協同活動に取り組むものとする。

また、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、高い満足度を得られるサービスを提供するため、自らも、さらなる経営の健全性向上と組織を支える人づくりに積極的に取り組むなど、次の事項を戦略目標として取り組むものとする。

- ①地域に即したJA組織基盤強化対策を実践する。
- ②高い満足度を得られるサービスの提供とJAの結集によりJA事業の競争力を強化する。
- ③総合経営にふさわしいJA経営態勢の確立と健全性の向上を図る。
- ④協同活動を担う人づくりを実践する。
- ⑤国民理解の醸成等に向けた広報活動を実践する。



JA役員視察研修報告

11月22日、地域農業の振興方策を探るため道央農業振興公社（恵庭市）を視察研修しましたので報告します。
 (財)道央農業振興公社は、公益法人として設立し、江別市、北広島市、恵庭市、千歳市の4行政区の農業分野を包含した大消費地札幌市に隣接する地域環境にあります。
 総耕地面積は16,600haに及び、水稻、畑作、野菜、酪農など土地利用型農業を始め、施設園芸作物による集約型農業や畜産など極めて多様な農業を展開しております。
 公社の主な業務は6事業を実施。
 事業運営費は6,500万円でJA2,800万円、行政1,500万円、再生協議会2,200万円の負担。JAより出向職員の人件費はJA負担となります。

- ・担い手の育成支援事業・・・1.9ha ハウス9棟
- ・農用地の利用調整支援事業・・・地区別農用地集積プランを策定し利用集積を図る。
平成23年度実績 749件 2,484ha
- ・生産性の向上と安心・安全な農産物生産支援事業
 - ①新規就農研修生の実践用研修圃場を備え、就農支援を行う。
 - ②技術研修事業や関連機関と連携した新品種試験・栽培技術研究事業を実施。
- ・農業労働力効率化支援事業

労働力不足の解消等の軽減を図るためパート労働者の登録による人材確保事業及び支払い業務の支援。現在登録農家数 270戸パート登録490名 賃金総額 165,000千円

◎新規就農研修制度については公社研修生(公社受入研修生)と先進的経営体験研修生(受入指導農家研修生)制度があり、各研修支援を用意(家賃助成3年間・就農資金借入200万円限度等)

新規就農者研修状況については、現在公社研修生4名、先進的経営体13名 計17名が研修中です。

尚、道央農業振興公社は農用地利用円滑化団体であり、農用地の斡旋業務について4行政区全てを行い地域ニーズに応じております。

当JAにおいて課題である新規就農支援、農用地の利用調整事業、農業労働力の確保等について公社の果たす事業及び機能について視察研修し農業振興の一助と致したい。以上報告致します。



平成24年度 第1回役員合同 コンプライアンス研修会を開催

12月8日、平成24年度第1回役員合同コンプライアンス研修会をホテル大雪（上川町層雲峡）で開催しました。
 当日は、野口専務を講師として、『いい会社とは』をテーマに、単に経営上の数字が良いというだけでなく、会社を取り巻くすべての人が、日常会話の中で「いい会社だね」と言ってくださり、自分も含めすべての人をハッピーにする。そこに「いい会社」を作る真の意味があるとの講演があり、役員一同、JAとしての社会的責任の重要性を再確認しました。





するーらいふ

元日と元旦では意味合いが異なる。年の最初の日が元日である。その元日の朝を元旦と呼び、または初日の出のことを指す。そう言えば人の名前で、「元」をはじめと読む場合は多い。名付け親は「元旦」の愛でたさを子に託したのであろう。「旦」という文字の発想が素晴らしい。地平線より顔を出した朝日を表すなどと説明を受けると、すっかり頷いてしまう。

日本のみならず、元日を祝日にしている国は多い。しかし、日本のお正月の雰囲気は格別のものがあつた。その昔、お正月遊びでは、凧あげや独楽廻し・羽根つきと多彩であつた。日頃小遣いに縁遠い子供たちには、お年玉があつた。このお年玉の語源もおもしろい。

古くは正月行事として「歳神」を迎える祭りがあり、門松を立てて鏡餅を供えた。その供えた餅をお下がりとして子供達に食べさせ、「御歳魂(おとしたま)」と呼ばれたことに由来するという説である。こどもの一年の健康を願った行事であつたのだろう。

現在は熨斗袋に、どの紙幣が何枚しのばせてあるかが子供達の楽しみである。それにしても、子供達が外で元気に遊ぶ姿にお目にかからない。日頃から気には留めていることであるが、外でのお正月の遊びなども風化する運命なのだろうか。恐らく、手にしたお年玉を持って、ゲーム機・携帯ショップへ勇んで走るのだろう。

家庭のお正月風景も簡素化され、一家団欒の遊びなども縁遠いものとなつてしまった。

ところで「お正月」の唱歌を口ずさんでみると、何故か昔の幼年期の、清楚な正月風景が蘇る。それでいて非常に温かい。現代は、あまりにも物質に恵まれた時代だと言わずにはおられない。年越し蕎麦を腹に入れ一年を振り返り、元日の朝の雑煮に新箸を入れ、気分をあらたにする。これだけでも幸福感を抱く。毎年こうして暮れて行き、こうして元旦の陽を拝む。すべての人の営みがこの連鎖である。どんなに時代が流れても、人々を穏やかな風で包んでくれる、お正月の原風景だけは変わらないで欲しい。テレビに映し出される、初参りの雑踏風景や日本髪を結って歩く女性達の姿が、ひとときお正月気分を増幅してくれる。爛地酒微睡み(まどろみ)夢は富士に茄子。

※このコラムは連載です。





JA上川地区女性協議会 女性部研修大会へ参加!!



12月13日、JA上川地区女性部研修大会がロワヅールホテル旭川で管内各地から約150名が集まり開催され、当女性部からも11名が参加しました。

『JA女性 気づこう一人ひとり、行動しよう 仲間とともに 健康な体づくりから、働きがいのある環境づくりを目指して～』をメインテーマに大会が行われ、「お酢を使って作ろう健康の輪」と題した講演、農作業着や生地をリフォームしたファッションショーが行われました。

ファッションショーでは、女性部員がモデルとなり、本物のモデル顔負けのウォーキングを披露しました。



JA女性部 愛別支部 第4回 元気な食をいただきますinあいべつ開催

12月5日、第4回元気な食をいただきますinあいべつを本所3階大会議室で開催しました。

当日は、矢部町長・野口専務に参加頂き、各地区から持ち寄った沢山の手作り料理を囲み、部員交流を行いました。

お楽しみ会ではビンゴゲームで、各部員が持ち寄った景品を交換しました。沢山の景品に迷いながら選ぶ部員がいるなど楽しいひと時を過ごす事ができました。



青年部視察研修

12月6日と7日の2日間で、JA上川中央青年部上川支部の視察研修で札幌に行ってきました。

1日目はカルビー千歳工場とコカコーラボトリング札幌工場を見学しました。カルビーではクイズを交えながらポテトチップスの生産工程を案内してもらい、普段口にしていない商品が完成するまでを知ることが出来ました。コカコーラでは大規模な工場の内部を見学し、ビデオ視聴や製品の試飲もさせていただきました。



2日目はアサヒビール北海道工場を見学しました。ビールを雪の影響から守る設備など、北海道のみで行っている取り組みもあることを教えてもらいました。試飲会場では各々がビールやソフトドリンクの試飲をして全員が楽しんで視察を終えることが出来ました。

貴重な体験ばかりでしたので、ぜひ1度体験してみてください。

あぐり王国北海道が愛別町の『なめこ』を取材にやってきた!!!



12月22日(土)午後5時よりHBC北海道放送の『森崎博之のあぐり王国北海道』の放送がありテレビ番組のロケが愛別町で行われました。

皆さんは見て頂けましたか?

今回の取材先は(農)下伏古菌茸生産組合のなめこです。収穫体験やきのご料理を食べたり、(有)協和農産の愛ふくふくの協力によるもちつきも行われました。

ロケの風景からも楽しい番組の雰囲気が伝わってきました。

このテレビを見て、きのご料理を食べたくなるお客様がもっと増えることを期待しております。



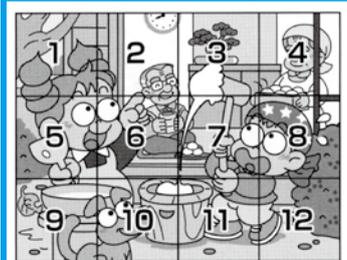
こんな出来事がありました



農業者年金協議会代議員会及び研修会 / 愛別町 農業青色申告会税務研修会 / 愛別町 JAあさひかわ女性部視察 / (農)ヒット

?まちがいさがし?

右のイラストには左のイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を探しましょう。



先月の答え

- 1...木がある
- 3...盆栽の大きさが違う
- 5...しゃもじの形が違う
- 8...弟のタオルの模様が違う
- 10...犬の舌が出ていない

JAのあゆみ

12月

- 3日 第5回上川地区畑青対(旭川)
第5回上川地区酪畜対(旭川)
- 4日 なかなかびーふ北海道販売会議(札幌)
JA監事監査(〜7日)
- 5日 コープさつぽろ旭川地区生協会(旭川)
第4回元気な食をいただきます(愛別)
- 6日 第61回全道JA青年部大会(札幌)
上川町畑作園芸振興会反省会(支所)
- 7日 総務金融・営農経済合同委員会
第13回農家経済対策委員会
- 8日 コープさつぽろ農業賞受賞者の集い(札幌)
コンプライアンス研修会(層雲峡)
- 10日 北海道もち米団地農協連絡協議会(札幌)
留萌・上川・宗谷地区常参会議(旭川)
- 11日 振興センター経営指導班会議(本所)
管理部課長会議(旭川)
- 12日 上川地区連合会・農事組合長合同会議
JA上川地区女性研修大会(旭川)
- 13日 税務研修会
- 17日 (愛別町)農業青色申告会(本所)
JA女性部合同役員会(本所)
- 18日 米なす部会議(本所)
胡瓜部会議(本所)
- 19日 愛別町七菜振興協議会役員会(本所)
第5回上川地区米対(旭川)
- 20日 上川町もち米団地反省会(支所)
水稲施肥防除技術セミナー(札幌)
系統飼料専任担当者研修会(旭川)
- 21日 ノーザンびーふ産直会議(札幌)
農業所得事務担当者会議(旭川)
- 22日 第14回農家経済対策委員会
年末調整説明会(本所)
- 25日 第11回理事会
- 26日 上川町4農業団体合同懇親会(支所)
- 27日 年末仕事納め
- 31日

第5回臨時理事会

平成24年11月16日

議事

1. 長期資金の融資について

第10回理事会

平成24年11月29日

報告事項

1. 組合員の脱退について
 2. 委員会報告について
 3. 内部審査協議会監査報告について
 4. 第2四半期JA監事監査の顛末について
- 議事
1. 組合員の加入報告並びに組合員資格について
 2. 組合員の相続並びに譲渡について
 3. 組合員の出資減口について
 4. 臨時給与の支給基準について
 5. 農事組合活動助成金等の支出について
 6. 資金の創設について
 7. 理事に対する長期資金の融資について
 8. 短期資金の融資について
 9. 長期資金の融資について
 10. 第3四半期見直し計画について

組合員のうごき

(平成24年11月29日現在)

正組合員戸数	400戸
組合員数	2,658名
うち正組合員数	583名
うち正団体数	36団体
うち准組合員数	1,967名
うち准団体数	72団体

もっと安心、もっと便利なカードへ。

JAバンクではICカードの新規発行およびICカードへのお切り替えが3月末まで無料です。



最近、車上荒らしなどによるキャッシュカードの盗難が増え、盗難キャッシュカードを用いた不正な引出しの被害が増えています。しかし、貯金者が日常でキャッシュカードや暗証番号をしっかりとしていれば、万が一の被害に遭われた場合に『預貯金者保護法』に従って損失の補償を受けることができます。

ただし、暗証番号をカードに書き込む、暗証番号を他人に教えた、安易にカードを第三者に渡した場合などは、補償が受けられない時がありますので日頃から暗証番号などしっかりとした管理が必要になります。



こんな時代だから安心できるカードを持とう。



JA女性部 一泊視察研修のご案内

～JA女性部役員一同より～
今年もJA女性部では、『愛別・上川合同』で一泊視察研修を開催致します。
多数の参加をお待ちしております。

女性だけで
たまには、ほっ・・・
の～んびりしませんか？

● 日程	平成25年2月8日(金) ～2月9日(土)	● 申込期日	平成25年1月25日(金)
● 宿泊先	天人峡温泉「御やど しきしま荘」	● お問い合わせ	愛別支部 ☎6-5315 上川支部 ☎2-1113

※詳しくは、事務局(営農販売課)までお問い合わせ下さい。

1月31日(木)棚卸による
営業時間変更のお知らせ

事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。
皆様にご不便をおかけしますが、ご理解よろしくお願ひ致します。

- 資材店舗 (本所・支所)・農機センター 休業
- Aコープ (あいべつ・かみかわ) 9:00～15:00迄
- ホクレン給油所 (愛別・上川) 通常営業